

令和4年10月18日

各 位

一般社団法人 日本環境アセスメント協会
研究部会長 森本 尚弘
セミナー委員会委員長 今関 哲夫

令和4年度 公開セミナー開催のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

今回のセミナーは、当協会研究部会の自然環境影響評価技法研究会、条例アセス研究会、制度・政策研究会、新領域研究会の令和2年度と令和3年度の調査研究成果の報告を行うものです。

各位におかれましてはご多忙とは存じますが、会員、会員外を問わず、お誘い合わせのうえ多数ご参加下さいますようご案内申し上げます。

敬具

記

1. 日 時：令和4年11月15日（火） 13:00～16:10（12:30 受付開始）
2. 会 場：森下文化センター多目的ホール
東京都江東区森下 3-12-17
(<https://www.kcf.or.jp/morishita/shisetsu/ichiran/detail/?id=36>)
3. 定 員：80名
4. 参加費：無料
5. 演 題：令和4年度 研究部会報告会（詳細は次第参照）
6. 申込み：令和4年11月8日（火）までに協会ホームページ内申込フォームにてお申込下さい。
申込みフォーム：<https://jeas.org/openseminar/>
なお、この公開セミナーは JEAS-CPD 制度の認定プログラムです。

以 上

お問合せ先：（一社）日本環境アセスメント協会事務局

TEL 03-3230-3583

令和4年度 研究部会報告会 次第

➤ 受付開始	12:30
➤ 開会挨拶	13:00～13:10
➤ 発表	13:10～16:10

(1) 自然環境影響評価技法研究会報告 (13:10～13:40)

本研究会では、アセスにおける調査、予測及び評価手法について、近年審査会等においてアセスでの活用が期待されている定量的な解析手法を用いた予測・評価や環境 DNA 技術に着目し、アセス実務者の観点から手続き段階及び事業特性を踏まえたアセスへの導入可能性に関する研究を行っております。

今回は、研究成果として、①環境影響評価における定量的な予測及び評価手法の実用化に向けた事例研究、②環境 DNA 技術の環境影響評価への導入に関する研究について報告します。

(2) 条例アセス研究会報告 (13:40～14:25)

本研究会では、地方の時代に即した条例アセスのあり方に注目し、地域性、独自性に着目した研究・調査を行うとともに、新しい視点での研究にも取り組み、環境コンサルの立場から、条例アセスのあり方、今後の課題等について研究を行っております。

今回は、研究成果として、①地域の特色を活かした条例制度に関する調査・研究、②事後調査における住民参加に関する調査・研究、③ポジティブ・アセスとグリーンインフラに関する調査・研究について報告します。

(3) 制度・政策研究会報告 (14:25～15:10) 本研究会では、わかりやすい環境影響評価及びその期待される環境配慮の効果について着目し、近年の社会的動向を考慮して、SDGs との関係性について研究を行っております。また、継続テーマとして、都市計画等他の手続きとの関係性や、過去の事業で実際に示された意見についての研究を行っております。

今回は、研究成果として、①諸手続きの緩和の可能性に関する研究 (その3)、②知事・主務大臣の意見、勧告に対する事業者の対応と事業への影響の分析、③SDGs と環境アセスメントの関係性に関する研究について報告します。

(4) 新領域研究会報告 (15:10～16:10)

本研究会では、協会の中長期ビジョン、環境アセスメント分野における今後の課題や、新技術の動向等を踏まえ、太陽光発電の事業中断、農村の人口減少・耕作放棄など土地利用変化等に伴う環境影響に対する環境アセスメント技術の適用、環境アセスメントにおける気候変動に伴う影響検討や累積・複合的影響に関する環境アセスメントの進め方、新技術である AI の環境影響評価への活用について研究を行っております。

今回は、研究成果として、①気候変動に伴う影響を考慮した環境アセスメント手法の検討、②再エネ等事業終了後等の土地利用変化に係る環境影響評価技術適用の具体化に係る検討、③環境アセスメントにおける累積・複合影響に関する検討、④環境調査・環境影響評価等における AI 等活用検討について報告します。